

「男女共学化」「全県一学区化」の検証の実施について（案）

1. 検証テーマ

「男女共学化」, 「全県一学区化」

2. 検証の方針

諮問理由を踏まえ、定量的かつ定性的なデータ分析に基づき、検証テーマに関する施策の実施状況や、施策の実施に伴う学校現場の状況を把握し、成果と課題を抽出する。

3. 検証の内容・方法

(1) これまでの審議の経過

① 県立高等学校将来構想審議会

- 第2回審議会（平成22年9月21日）において、検証テーマを選定する審議の中で、次の議論があった。
- ・検証テーマのうち、何にプライオリティを置き、どういった順番・期間で検証を実施し、アウトプットとしてどのようなものを出すのかなどは、検証部会の議論に譲る。
 - ・「男女共学化」「全県一学区化」は、時間をかけて検証すべきテーマである。ただし、改革は既に実施されているので、現時点でどのような課題が起きているのかは見ていかなければならない。その後の経過はじっくりと見ていくべき。
 - ・県民が一番注目しているのは「男女共学化」「全県一学区化」だが、そのアウトカムが見えてくる時期がはっきりしない。
 - ・「全県一学区化」は、高等学校入学者選抜審議会においてフォローアップしているので、その経過を見ながら検証に着手するのが良いのではないかと。

② 高校教育改革検証部会

【男女共学化】

- 第2回部会（平成23年1月26日）において、「男女共学化に関するデータの収集・整理の方向性」に関し審議を行った。
- ・はじめに「統計的データの収集・整理」をして問題構造の把握や仮説の絞り込みを行い、「現地調査」でデータ分析の補完と仮説検証をするのが順当との意見が多勢であった。
 - ・アンケート調査の実施については否定的な意見が多かった。

【全県一学区化】

- 第1回部会（平成22年11月2日）において、「全県一学区化については高等学校入学者選抜審議会でもフォローアップしていることから、その経過を見ながら検証作業に着手する」ことを決定した。

(2) 検証の内容・方法

① 検証の実施

- ア) 「男女共学化」「全県一学区化」に当たって教育庁・各学校が実施した取組の合理性・有効性を検証する。
- イ) ア) の検証プロセスを進める中で、「男女共学化」「全県一学区化」の実施による教育効果について、評価すべき時期や評価手法・指標を検討した上で、検証を進める。

② 検証手法の構築

「男女共学化」「全県一学区化」の施策としての有効性や教育効果の評価に当たっては、教育に関する各種の取組が学校現場においてどのように展開され、どのような成果と課題が生じているのかを的確に、かつ、継続的に把握していくことが重要であることから、こうした現状把握の手法の確立に向けた検討を行いながら、中長期的に検証を進める。

4. 第2期審議会における検証の進め方

(1) 目標

- ① 各種データを分析して現状を把握するとともに、中長期的な検証を進めていくための指標の整理を行う。
- ② 任期末（平成24年7月）までに審議内容を取りまとめ、次期の審議会に引き継ぐ。

(2) スケジュール

検証スキーム	実施時期（案）	
	部会	審議会
① 検証方法の検討 ア) 検証スキーム、スケジュールの検討 イ) 検証の視点、検証に必要なデータ（定量・定性）の検討	第6回 (H23.12) 第7回 (H24.2) 第8回 (H24.3)	第4回 (H24.1)
② 現状把握 ア) 既存データの分析 イ) 既存データでは適切に検証できない場合は、追加調査（ヒアリング、アンケート等）の設計、実施、分析		—
③ 中長期的な検証を行うための評価指標（検証項目、データ等）の整理		—
④ 部会における審議内容の取りまとめ		
⑤ ④について審議会に報告		第5回 (H24.5)
⑥ 部会報告の内容を審議 ⑦ 審議内容の取りまとめ	—	第6回 (H24.7)

5. 検証の視点・データ

（別紙）のとおり

(別紙)現状把握のための検証の視点・データ

(1)男女共学化／全県一学区化の目的は何か。

施策	施策の目的
男女共学化	○県民の負担で設置されている公立高校において性差による入学制限を撤廃する。
	○高校生という多感な時期に、男女が共に学び、理解し、成長し合う場を日常的に設ける。
全県一学区化	○生徒の学校選択の機会を拡大する。

② 施策の実施による教育効果の検証

【検証の視点】 県立高校将来構想が目指す人づくり

前構想 (H13～H22)	主体的に考え生きる人づくり	○変化の激しいモデルなき時代において、生涯にわたって学び続ける意欲を育成する。
	人々と支え合い生きる人づくり	○多様な価値観を認め合う時代において、ゆたかな創造性と自己責任倫理を育成する。
	地球社会を生きる人づくり	○人間と自然の融合を図る時代において、広い視野と寛容性を育成する。
現構想 (H23～H32)	主体的に生き抜く力の育成	○基礎となる知識や技能を定着させる。 ○基礎的知識・技能を活用していく力を習得させる。 ○自らが果たすべき役割を認識し、主体性をもって自律的に行動できる姿勢を育成する。
	人とかかわる力の育成	○自分の意見を的確に伝え、意見や立場の異なる人を尊重しながら、目標に向けて人と協力できるコミュニケーション能力を育成する。 ○能動的に人との関係を築いていく力を育成する。 ○協調性や柔軟性を育成する。

① 施策の検証

(2)施策目的を実現するための取組は適切に実施されているか。

施策	検証のチェックポイント	検証データ(案)		
		教育庁の取組	学校の取組	生徒の状況
男女共学化	○共学化への移行に伴う施設・設備の整備は適切か。	○施設整備の状況		○学校施設・設備に対する生徒の満足度
	○共学化への移行に伴う指導体制の整備は適切か。	○教員の男女比 ○共学準備校への支援の状況	○共学化準備に向けた校内研修の実施状況	○中途退学率・理由 ○長期欠席率・理由
	○教育相談の体制は整備されているか。	○教育相談の体制整備の状況	○スクールカウンセラーの活動状況	○教育相談に対する生徒の満足度
	○生徒の学校選択のために十分な情報が提供されているか。	○生徒・保護者・中学校指導担当への周知状況	○オープンスクールの実績 ○中学校指導担当への周知状況	
全県一学区化	○各校の特色づくりが進められているか。	○各校への支援施策の状況	○教育目標 ○学校の特色づくりの状況 ○カリキュラムの編成状況	○一般入試志願倍率 ○進路希望 ○学力テストの成績 ○授業・進路指導に対する生徒の満足度
	○生徒の学校選択のために十分な情報が提供されているか。	○各校への支援施策の状況 ○生徒・保護者・中学校指導担当への周知状況(再)	○オープンスクールの実績(再) ○中学校指導担当への周知状況(再)	

① 施策の検証

(3)施策が目指した教育活動が展開されているか。弊害は生じていないか。

施策	検証のチェックポイント	検証データ(案)		
		教育庁の取組	学校の取組	生徒の状況
男女共学化	○性別による学習機会の制約はないか。		○性別を理由とした科目選択の制限の有無	
	○学校行事、部活動、生徒会活動等における制約はないか。		○男女別部活動数	○部活動参加者数(男女別) ○生徒会役員、学級委員、部活動部長の男女比 ○学校行事、部活動、生徒会活動に対する生徒の満足度
	○生徒の学校選択の機会を拡大しているか。	○共学化の実施状況		○生徒数(男女構成比) ○一般入試志願倍率(再)
	○男女が共に学び、理解し、成長し合う場が日常的に設けられているか。		○クラス編成の状況 ○学校行事の実施状況	○部活動参加者数(男女別)(再) ○学校行事、部活動、生徒会活動に対する生徒の満足度(男女別)(再)
全県一学区化	○学校行事、部活動、生徒会活動等における制約はないか。			○部活動参加者数(再) ○通学距離・通学方法
	○生徒の学校選択の機会を拡大しているか。	○全県一学区化の実施状況	○学校の特色づくりの状況(再)	○生徒の出身地区
	○特定地区・学校への志願が集中していないか。			○一般入試志願倍率(再) ○定員充足率(再)